

〔我衣〕日傘ハ古來ヨリ有トミユ、小兒日傘モ天和比ヨリ下ル、地ニテモ作ル、五色ノ彩色シタルモ
ノナリ、青紙ノハアツラヘナリ、藍紙ニテ一色ニ染タルモアリ、近來大人モサス、僧醫者ノタグヒ、
上方ニテハ前々ヨリアル由、

日傘ハ婦人ニ限ルベキカ、髮ノソコチルヲイトヘバ也、僧醫ノタグイハ、カムリ笠ヲ用テモ可ナ
ランモノヲ、

寛保ノ比ヨリサス日傘、皆青紙張ナリ、又小兒山王八幡明神天王等ノ祭禮ニ、ネリ子供サス笠ハ、
皆丹染ノ一色ナリ、他人サシテ子供ヲ覆フユヘ、柄長シ、ノキニハ鈴又ハキヌヲハリ、内ニハ鈴守
リフクサ等ヲツケル、此餘風今祭禮ニ殘ルモノカ、

大人青紙ノ日傘サスコト、寛延二年己巳ニ御停止、再觸寛延三年午八月、別テキビシク仰付ラル、

小兒計用ル、翌三年ヨリ、
日傘ニウルシナツカフ、

〔守貞漫稿〕三履文政以來、二重張ノ日傘、紺紙ト白紙ト重ネハル、白ヲ表ニス、且リ三尺二三寸、價銀
四五匁ヨリ金二朱也、京坂ノミニテ、江戸ニ不用之歟、今ハ

三部トモニ白、文政以前京坂ニ全アサギ張、或ハ全ク白紙張モアリ、天保府命ノ時、大坂ノ官命ニ

男子日傘、婦女ノ羽折ヲ禁止アリ、○中略

日傘ハ三都トモニ女用専ラ中ト周リト紺紙、中間淺黃紙也、蛇ノ目ト同制也ト雖ドモ、日傘ニハ

蛇ノ目ト云ザル歟、此日傘亘リ概三尺六寸、五彩ノ糸裝束アリ、男子ハ不用之、僧醫モ亦不用之、江

戸武家葵髻ノ女、俗ニ云御殿女、中ナル者ハ、専ラ紺紙、京坂今世モ専ラ右ノ日傘ヲ用フ、江戸ハ近年
紙ト白紙ト蛇ノ目日傘ヲ用フ、紺淺葱ノ物ト並用、

全ク淺黃紙張ヲ用ヒ、弘化以來雨天モ用之、淺黃張及ビ雨天ノ日傘、亘リ概三尺、或ハ三尺三寸、頃

日ハ快晴ニモ専ラ雨天傘ヲ用フ、澀引モアリ、澀ニ水ヲ和テ淡ク、又近年天保以骨竹ヲ表裏ニ出
染タル也、方今ハ桐油ヲ引ク、

シ、紺紙、淺黃ヲ挾ミ張タルアリ、外面ニ竹皮ヲ出セリ、蓋專用ニ非ズ、形普通ノ日傘也、再考、澀引日

傘ハ文政中行ル、